



### 富山湾の形成の謎を語る 12万年前の貝化石

1990年12月20日、富山県下新川郡朝日町赤川沖、水深300mに仕掛けられた刺網にたくさんの貝化石を含む岩がかかった。この岩に含まれる貝化石はシドロガイやマツヤマワスレガイ、ムシロガイ、キサゴ、スタレガイなどの富山湾の水深20～30mの砂地にすむ貝ばかりであった。その上、化石の保存状態は種によっては殻の色まで残っているものもみられた。

なぜ、富山湾の水深300mから浅海の貝化石が見つかったのであろうか。この貝化石と非常に似た貝の構成や保存状態を示す化石が、石川県珠洲市平床からみついている。平床は海岸から約1.5kmほど陸に入った海拔30mの高台に位置し、すでに、放射性同位元素を使った年代測定により、平床の貝化石は12万年前に推積した事が分かっている。今回、採集された貝化石が平床と同じで、12万年前の化石なら、化石が採集された赤川沖では、過去12万年に200m以上の沈降を伴う地形の変化が起こった事になる。この化石はこのような富山湾の形成過程を物語る貴重な資料の一つである。

標本所蔵 魚津水族館 UA-Pa 2

(高山茂樹)